

ふくしま オーガニック通信



～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～



R4-2

令和4年11月7日

福島県農業総合センター

有機農業推進室

福島県郡山市日和田町高倉

字下中道 116 番地

TEL 024(958)1711 FAX 024(958)1730

Email : yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp

『オーガニックふくしまマルシェ2022』を開催しました！

環境保全農業課

令和4年9月10日（土）に郡山駅前西口広場にて、オーガニックふくしまマルシェ2022を開催しました。天候に恵まれ、延べ約1,000名が来場し、大盛況のイベントとなりました。

当日は12団体が出展し、ミニトマトなどの有機農産物や有機加工品が販売され、中には、有機栽培シイタケ・キクラゲの摘み取り体験など工夫を凝らしたブースもありました。また、有機農産物等を購入した方やブースを見学した方を対象に、有機農産物などが当たる抽選会も実施しました。

来場者は主婦や子供連れの来場者も多く、「環境にやさしい」、「安全・安心」など県内各地のこだわりの有機農産物にふれる機会となりました。また、「有機農産物を知るきっかけになった」、「今後も有機農産物を購入してみたい」などの声が多く寄せられました。

県では、有機農業の取組が拡大するよう、有機農業の理解促進及び有機農産物の消費拡大に向けた取組を進めてまいります。



オーガニックふくしまマルシェ2022の会場の様子

東京で『ふくしまオーガニックフェア』を開催しました！

環境保全農業課

令和4年9月20日（火）から30日（金）に、東京都内飲食3店舗（まどか、Jogi's Curry、田ノ実）にて、ふくしまオーガニックフェアを開催しました。

フェアでは、「有機栽培野菜を使ったポテトサラダ」や「有機栽培米を使ったおむすび」など、県産有機農産物をふんだんに使った特別メニューを販売しました。

店舗にはランチを楽しむ主婦や仕事帰りに総菜を求めるビジネスマンなどが来店し、「有機農産物を使っていて安心できる」という理由で購入する方も多く、完売するなど売れ行きも大変好評でした。

協力いただいた店舗からも、「福島県産有機農産物は品質・味・見た目よく、自信をもって販売できた」などの声が寄せられました。

引き続き、有機農業の販路開拓・拡大に向けた取組を進めてまいります。



ふくしまオーガニックフェアの様子

普及コラム①

「浅川町の有機農業者が、新たに有機JAS認証を取得されました！」

農業総合センター 有機農業推進室

浅川町で有機農業を営む小針啓孝さんが、令和4年6月に浅川町では第1号となる県の有機JAS認証を取得されました。

小針さんは、県指導農業士である父親の浩美さんから指導を受けながら、環境負荷の少ない農業に取り組まれています。

この度認証となった農地では、農薬や化学肥料を使用しない管理を3年以上行っており、栽培で使用される資材は、米糠やモミガラ等を原料とした自家製の「ぼかし肥料」を用いています。

現在、大玉・中玉・ミニトマト、キュウリ、ニンニク等の野菜類やバレイショを生産しており、主に近隣の直売所に販売しています。

「有機農業を行う上での醍醐味は、地域資源を活用することで資材コストを削減すると同時に、環境負荷を軽減することができるという一石二鳥の効果を、いかに実践していくかを考えることだ」と、日頃より小針さんはお話されています。

小針さんの今後の活躍をご期待いたします。



和田山所長より有機JAS認証証を授与される小針さん

普及コラム②

「あさかのCSAは、食を通じて持続可能な地域づくりを目指しています」

農業総合センター 有機農業推進室

「あさかのCSA」は、(有)ハッピーファームを運営する安田 潤一さんが代表を務め、「食を通じた持続可能な地域をつくりたい」との思いから、地域の有機農家と消費者をつなぐ取組を行っています。

CSA(コミュニティ・サポート・アグリカルチャーの略)とは、生産者と消費者が連携し、農産物代金の前払契約を通してお互いに支え合う仕組みのことです。

生産者は代金の前払で定額の収入が確保でき、経営の安定化が図られ、消費者は新鮮で質の高い農産物を定期的に入手できるなど、相互にメリットがあります。

「あさかのCSA」では、郡山市内に4か所、須賀川市内に1か所設置した「ステーション(農産物の受け取り場所)」に消費者毎のボックスを設け、生産者は月2～3回おおむね隔週で有機農産物や加工品を供給し、消費者は供給日の決められた時間帯にボックスから農産物を受け取る仕組みとなっています。

また、「あさかのCSA」では、消費者との交流を深めるため「稲刈り」や「麦播き」、「味噌づくり」等の農業体験も実施しています。

CSAの取組を通して安田さんは「草や虫と共存できる田畑で育てた農産物を消費者に届けることで、環境を守るだけでなく、消費者の健康も守りたい」とおっしゃっていました。

「あさかのCSA」の取組がますます拡大することを期待しております。



CSAで提供される農産物セットの一例



あさかのCSA 公式 LINE

普及コラム③

「喜多方市の有機農業者組織「自然農法 会津雲の会」を紹介します！」

会津農林事務所 農業振興普及部

会津地方には有機農業者組織が数多く存在し、有機JAS認定の取得や共同出荷販売、機械の共同利用等、目的も様々です。組織の枠を超えた情報交換や勉強会も積極的に行われています。

「自然農法 会津雲の会」は喜多方市の若手有機農家3名が平成30年9月に設立しました。現在は喜多方市塩川町の小島潤さん、同市岩月町の相田恭平さんの2名で有機JAS認証を取得し、有機農業技術の研鑽に努めています。

お二方ともミニトマトを中心に栽培してきましたが、近年の需要動向や学校給食への対応から、ニンジン等、品目数の増加を実践中です。

土壌分析結果に基づいた土壌改良や収支計算に基づく作付計画作成等、組織独自のロジックを若い農業者に伝達できればと考えています。

有機農家の高齢化が進む中、若い有機農業者組織の活躍が期待されます。



ニンジンの収穫適期を確認する小島潤さん(左)と相田恭平さん(右)

普及コラム④

「磐梯町における「グリーンな栽培体系への転換サポート」の取組について」

会津農林事務所 農業振興普及部

会津農林事務所では磐梯町および磐梯町農産物ブランド化推進会議と連携し、今年度から国の「みどりの食料システム戦略推進交付金」の一つである「グリーンな栽培体系への転換サポート」事業に取り組んでいます。

「グリーンな栽培体系」とは、それぞれの産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術」を取り入れた栽培体系のことで、磐梯町においては、これまでの有機・特別栽培の取組に加え、「環境にやさしい栽培技術」として秋耕の実施、「省力化に資する先端技術」として自動水管理システム、リモコン草刈機の導入を検討しています。

本年度は、6経営体に協力をいただき、技術実証を行っており、これまで3回実施した現地検討会において、新技術を広く周知し、

省力効果や使用した際の生の声を把握することができました。令和5年2月にはこれらの検証結果を踏まえて、磐梯町版グリーンな栽培体系マニュアル、産地戦略を検討し、令和5年度以降、町内に広く普及推進を図っていく予定としています。



現地検討会におけるリモコン草刈機の説明

普及コラム⑤

「浜通り地方で新たに有機 JAS 認証を取得した皆様を取材しました」

相双農林事務所 双葉農業普及所

浜通り地方で新たに有機 JAS 認証を取得した皆様を取材しました。
令和4年4月1日から8月2日に認証を取得した皆様を紹介します。

双葉地域



松本 和也さん
(まつもと かずや)

双葉郡檜葉町 松本和也さんは令和4年7月に認証されました。

松本さんは同町の「松館有機有志会」に所属し水稲有機栽培に取り組み、今年で3年目になります。

松本さんが有機栽培を始めたキッカケは、松館有機有志会の現会長で震災前から有機栽培に取り組んでいる松本広行さんからの「一緒に有機農業をやしましょう。できる限りバックアップします。」との一言だったそうです。

お話しを伺い、先輩有機農業者の存在は、非常に大きなものだと感じました。

「消費者の健康志向が高まっていると感じています。松館地区の仲間と楽しく有機農業を実践し、檜葉町産有機米をたくさん作っていきたいです。」と笑顔で話していただきました。

いわき地域



たがやす農園さん
(くしだ こうへい)

いわき市 榎田耕平さんのたがやす農園は令和4年4月に認証されました。

農園名は耕平さんの「耕」の字が由来です。

榎田さんは令和2年に設立された「環境保全型農業研究会 農 Limit」に所属し、水稻有機栽培に取り組んでいます。

初めて有機栽培で作ったお米は酒米で、翌年コシヒカリに品種を変更し、そのお米の「おいしさ」に感激したことが有機農業に熱心に取り組む動機となったとのこと。

現在の有機栽培のこだわりは、油糟や米糠などを独自配合した「自家製発酵肥料」の利用で、食味に重点をおいた栽培をしています。

「お客様に「榎田さんの米はおいしい」と言われるのが本当にうれしい。もっと早く有機農業をやっていたら良かった。」と話してくれました。



安島淳司農園さん
(あじま じゅんじ)

いわき市 安島淳司農園さんは令和4年5月に認証されました。

淳司さんは「環境保全型農業研究会 農 Limit」に所属し、父親の美光さんが現会長です。

淳司さんはサラリーマンを経て、令和元年に就農し、お父さんとともに有機農業に取り組んでいます。

サラリーマン時代に縁があり、有機農業者とお付き合いがあったこと、父親の美光さんから将来の有機農業構想を聞かされていたこと、これらが有機農業に就農するキッカケと話していました。

「今はまだ有機農業について勉強している時期。農 Limit には高校時代の同級生もいて心強い。会の研修などを通じて自然栽培などしっかりと有機農業の知識と技術を習得していきたい。」と力強く話してくれました。

普及コラム⑥

「環境にやさしい農業拡大推進事業実証ほ有機野菜中間検討会及び有機野菜交流会」を開催しました。」

相双農林事務所 双葉農業普及所

7月26日(火)、檜葉町の環境にやさしい農業拡大推進事業実証ほにおいて、新規就農者、新規有機農業取組者、有機農業志向者、野菜の有機栽培に興味を持っている農業者等を対象に、「実証ほ中間検討会及び有機野菜交流会」を開催しました。

当日は関係者を含め合計27名が参加し、浜通り地方有機農業担当と双葉農業普及所野菜担当、農業総合センター有機農業推進室から、実証ほの位置づけ、ナス実証ほの中間報告、樹勢確保のための栽培管理、有機農産物における小売店の動き、中通り地方の有機野菜の栽培事例及び使用資材事例について説明しました。

実証ほの担当農家猪狩さんからも現状や課題、感想などを説明いただきました。

有機農業は、すぐに結果が付いてこないことがあること、栽培方法が多岐にわたること、農業者の工夫により野菜の有機栽培も可能であること、以上を参加者に理解していただいたと思います。

現在、浜通り地方には水稲、野菜、ユズの有機栽培を行っている農業者がいます。各品目の課題に応じて、浜通り地方有機農業担当は農業者と相談しながら有機農業を支援してまいります。

浜通り地方で有機農業に興味のある方はお気軽に担当までご連絡ください。

【連絡先 相双農林事務所 双葉農業普及所 浜通り地方有機農業担当 TEL0240-23-6473



交流会の様子

〈お知らせ〉

「令和4年度環境にやさしい農業拡大推進事業」及び 「令和4年度ふくしま有機農業ひとづくり強化支援事業」について

環境保全農業課

1 令和4年度環境にやさしい農業拡大推進事業

有機JAS認証等の取得や生産安定・生産拡大に必要な施設・機械の導入を支援します。
(HP) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021d/youki-keikaku-04.html>

(1) 有機JAS認証等拡大推進事業

有機JAS認証等の新規認証又は継続認証に要する費用を支援します。

- 【補助率】①有機JAS認証取得（新規）：3／4以内
②有機JAS認証取得（継続）：1／2以内
③福島県特別栽培農産物認証取得（新規）
：3／4以内
④有機JAS小分認証の新規取得に必要な施設の整備
：1／2以内（上限200万円）
⑤有機JAS小分認証（新規）：定額（上限30万円）

(2) 環境にやさしい農産物供給体制の整備

農業者2戸以上で構成する組織等が有機農産物等の生産拡大や出荷安定化に向けて、共同で利用する施設・機械を導入する経費を支援します。

【補助率】1／2以内（上限額1,000万円）

2 令和4年度ふくしま有機農業ひとづくり強化支援事業

（令和3年度～令和5年度）

有機農業による就農者の確保及び就農支援活動、有機農業の実践的な研修体制の整備等を支援します。

(HP) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021d/youki-hitodukuri-01.html>

(1) チャレンジふくしま有機農業推進事業

有機農業の組織等が実施する有機農業の新たな担い手確保及び就農支援活動等に要する費用を支援します。

【事業主体】有機農業者が構成する組織、市町村、団体等
【補助率】2／3以内（上限額100万円）

(2) チャレンジふくしま有機農業就農研修支援事業

就農研修者を受入れる農家が、有機農業の実践的な研修を実施するために必要な整備及び運営経費を支援します。

【事業主体】有機農業者が構成する組織及びこれに属する農業者、市町村、団体等
【補助率】2／3以内（上限額200万円）

詳細については、下記の農林事務所等へお問い合わせください。

【問い合わせ先】

県北農林事務所	: 024 - 521 - 2604	県中農林事務所	: 024 - 935 - 1307
県南農林事務所	: 0248 - 23 - 1555	会津農林事務所	: 0242 - 29 - 5302
南会津農林事務所	: 0241 - 62 - 5253	相双農林事務所	: 0244 - 26 - 1147
いわき農林事務所	: 0246 - 24 - 6160		
農業総合センター有機農業推進室	: 024 - 958 - 1711		
農林水産部環境保全農業課	: 024 - 521 - 7453		



事業の詳細については、こちらの二次元コードより
アクセス願います。

